

(別紙様式)

中山間ふるさと・水と土保全対策事業 中山間ふるさと・水と土保全推進事業

事業実施計画

計画期間：令和2年度～令和6年度

(令和3年度)

計画内容

1. 事業実施の基本方針
2. 事業計画
3. 事業実施の成果目標と実績
4. 事業評価と対応

京都府

※赤字：道府県毎に記載内容が変わるもの。

※緑字：事業実施計画は事業の実施に合わせ毎年度更新することを想定。

1. 事業実施の基本方針

目標年度	令和6年度
現状と課題	京都府域の7割を占める中山間地域は食料等の生産をはじめ、国土や環境の保全、地域文化の継承、生物の多様性など多面的機能の発揮を通じて都市の生活を支えている。現在、過疎化・高齢化が都市に比べて進み、基幹産業である農林水産業等の低迷により、地域の活力・集落機能・地域協働力の低下も懸念されており、中山間地域の振興を図っていくことが課題である。
事業実施の基本方針	地域住民活動の活性化のきっかけとして、農地や農業用施設の維持保全のための支援体制づくり「ふるさとボランティア」や地域外住民の継続的な参画の促進により農山漁村の維持活性化を図る参加型住民づくり事業、次世代を担う子どもたちが地域内外の人たちと共に農地・農業用施設の体験を通じた学習を行う「ふるさと発見隊」等の活動を進める。
計画後の目指す姿	農山漁村の豊かな自然環境・文化・景観などの地域資源を府民ぐるみで守り育てながら、都市と農山漁村の多様な交流・連携の促進などを通じて相互理解を深め、農村に住む人と都市に住む人が多くの保全活動に参加し、人と地域の絆の再生を図る。

2. 事業計画 ※作成イメージ

一複数年度にわたる予算の確保が効率的であること。また弾力的な事業展開が可能となるような事業計画となっていることが分かる事業内容とする。

事業（取組）名	事業（取組）内容	達成すべき目標との関連	事業実施要綱上の該当項目	5ヶ年間の事業（量）内容					総事業費
				令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
ふるさと・棚田支援事業	ふるさと保全委員会の開催により、保全対策の実施状況を評価し、その内容を広く府民に対し周知する。		ふる水第3-2-(3)	効果的な事業推進のため、活動計画に対する提言・助言を得る。					100
	地域の実情に応じ、農業農村における多面的機能の発揮の一部として、様々な主体で構成される地域協働による活動等の研修会や講習会を実施する。		ふる水第3-2-(2) 棚田第3-2-(2)	農地・農業用施設の良好な保全と技術及び意識の向上を図る。					1,000
	ふるさと保全活動をより広く府民にPRするために冊子の配布を行うとともに、ホームページの運営・イベント等でのPR活動を行う。		ふる水第3-2-(3) 棚田第3-2-(2)	農山村の保全活動の周知及び府民の理解度を向上させる。					450
	水路や農道などの農業用施設の保全活動や地域特産品の試作などを通じて、学校（高校・大学）と農村地域との連携を高める。	①	ふる水第3-2-(3) 棚田第3-2-(2)	棚田等の多面的機能に係る理解の向上と集落協働活動を推進する人材の育成につなげる。					525
	次世代を担う子供達が地域内外の人達と共に、農業・農村の役割・歴史・文化や里山・水田が育む豊かな生態系等について体験を通じて学習し、ふるさとの農山村に誇りと愛着を高める。	①	ふる水第3-2-(3) 棚田第3-2-(2)	棚田等の多面的機能に係る理解の向上と集落協働活動を推進する人材の育成につなげる。					525
	農地や農業用施設の維持保全活動を非農家や都市住民が共に参加、支援し、ボランティア組織を立ち上げるなど継続的な活動のきっかけ作りを行う。	①	ふる水第3-2-(3) 棚田第3-2-(2)	都市農村交流等の活用による地域活動の活性化と農村地域の現状に対する理解の拡大を図る。					400
参加型住民づくり事業	地域の協働活動などコミュニティの一員として参画する参加型住民（地域外ファン）を増やすために地域が実施するフィールドワーク活動などを支援	②	ふる水第3-2-(3) 棚田第3-2-(3)	地域外住民の継続的な地域の協働活動への参画を目指し、1年40地区で実施する。					8,000
農山漁村集落協働支援事業	地域内外の人材育成や農山村保全活動への参加住民の取り込み及び農村コミュニティ組織の体制強化をサポートする。	③	ふる水第3-2-(2) 棚田第3-2-(2)	農村と大学等による活動協定締結や大学を中心とした農山村ボランティア、地域住民同士の話し合い・合意形成などをコーディネートする人材を育成する。					2,000
				令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
中山間ふるさと・水と土保全対策事業（ふる水と土基金）			計画事業費 (実績額)	10,011 (3,785)	19,250	19,250	18,480	17,710	
中山間ふるさと・水と土保全推進事業（棚田基金）			計画事業費 (実績額)	2,989 (1,119)	5,750	5,750	5,520	5,290	

3. 事業実施の成果目標と実績

達成すべき目標	指標	基準値	目標値	年度ごとの実績					達成度	
				令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度		
① 農山村の保全と地域の振興	保全活動ボランティア等の参加人数	150名 (3カ年平均)	750名 (5年)	266人						
② 農山村地域による地域活性化のための主体的な取組の推進	支援地区数	40地区 /年	200地区 (5年)	19地区						
③ 農山漁村の活性化に資する人材の育成	協定もしくは研修等の参加者数		累計50人	49人						

4. 事業評価と対応

達成すべき目標	事業実績の評価		備考
	外部有識者の所見	所見を踏まえた改善方針	
① 農山村の保全と地域の振興	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年度はコロナ禍の影響で、各活動に支障があったものの、それぞれの団体が工夫を凝らし頑張って活動を行った。コロナ禍における工夫の仕方について、ノウハウ等を共有できれば良い。今後も安全対策を施しながら積極的に交流活動を推進してほしい。 人口減少の進む中山間地域での、農地管理に関して省力化技術の導入促進や広域的な農地管理体制の構築は必要と考える。多面的機能支払の活動組織の広域化と合わせて推進してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 密を避けるなど安全対策を徹底し、他の事例なども参考にしながら地域振興等に資する取組を継続したい。 R3年度に、ラジコン草刈機を中山間地域において導入するための実証調査を行いたい。 	
② 農山村地域による地域活性化のための主体的な取組の推進	<ul style="list-style-type: none"> 地域の方と地域外の方が共同作業を行い共に苦労することが、交流を続けるモチベーションになる。コロナ禍での活動は難しい面はあるが、都市・農村側の双方が工夫をして継続していくようにしてほしい。 三密を避けることで、ネットの利用が拡大し、使ってみると様々な可能性がある。オンラインだけではうまくいかないこともあるが、スマートなオンライン活用の取組があれば活動の幅は広がると思う。 棚田オーナーや参加型住民づくり事業など、幅広く多くの方に参加してほしい取組などは、京都府ホームページでしっかりPRしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 関係人口の増加に向け、都市と農村の継続的なつながり作りを今後も支援したい。対面での活動が困難な場合はオンラインを活用するなど、工夫しながら取組を行えるようサポートしたい。 	
③ 農山漁村の活性化に資する人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> 広域的農地管理体制の構築や農村コミュニティ再構築について、農業団体との連携も含めて、集落連携、広域化の取組を進めてほしい。 農村コミュニティ再構築の支援など、令和3年度からの新たな取組提案があり、中山間地域にとって必要な対策をしっかりと取り組んで成果を出してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> R3年度から、中間支援組織と連携して地域共同活動の見直し、コミュニティの再構築に向けた支援を行いたい。 	